

# DMATとDPATの比較

	DMAT (Disaster Medical Assistance Team) 災害派遣医療チーム	DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) 災害派遣精神医療チーム
概要	・大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、 <u>救急治療を行うための専門的な医療チーム</u> 。	・自然災害、航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後に被災者及び支援者に対して、 <u>精神科医療及び精神保健活動の支援を行うための専門的な精神医療チーム</u> 。
活動期間	・DMAT1隊あたりの活動期間は、移動時間を除き概ね <u>48時間以内を基本</u> 。なお、災害の規模に応じて、DMATの活動が長期間(1週間など)に及ぶ場合には、DMAT2次隊、3次隊等の追加派遣で対応。また、DMATロジスティックチームの活動期間は、48時間に限定せず、柔軟に対応。	・DPAT1隊あたりの活動期間は、 <u>1週間(移動日2日・活動日5日)</u> を標準とし、必要があれば一つの都道府県等が <u>数週間～数カ月</u> 継続して派遣。
チーム構成	・DMAT1隊の構成は、医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名を基本。	・DPAT1隊の構成は、精神科医師、看護師、事務職員等による数名のチーム(車での移動を考慮した機動性の確保できる人数を検討)で構成。
情報システム	広域災害・救急医療情報システム (Emergency Medical Information System; EMIS)	災害精神保健医療情報支援システム (Disaster Mental Health Information Support System; DMHISS)

# DPATの名称の経緯

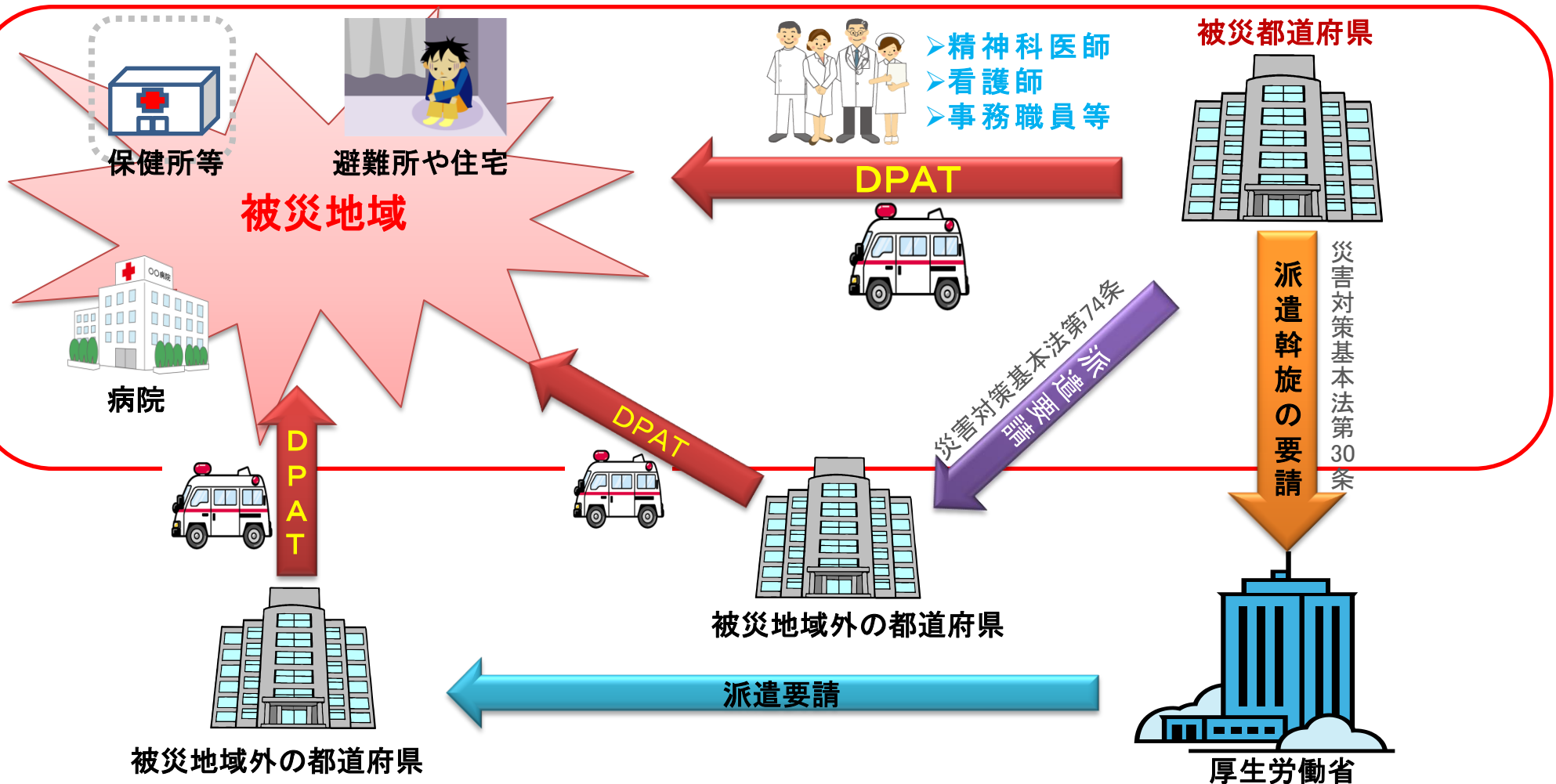
○東日本大震災における心のケアについては、活動手法に関する要領が定まっていないことから、一部非効率な運用が見られる等の課題が明らかとなった。

○各都道府県等における心のケアチームの整備を促進するため、平成24年度から「心のケアチーム体制整備事業」を実施しているが、当該チームの定義や具体的な活動要領の作成の必要性が認められた。

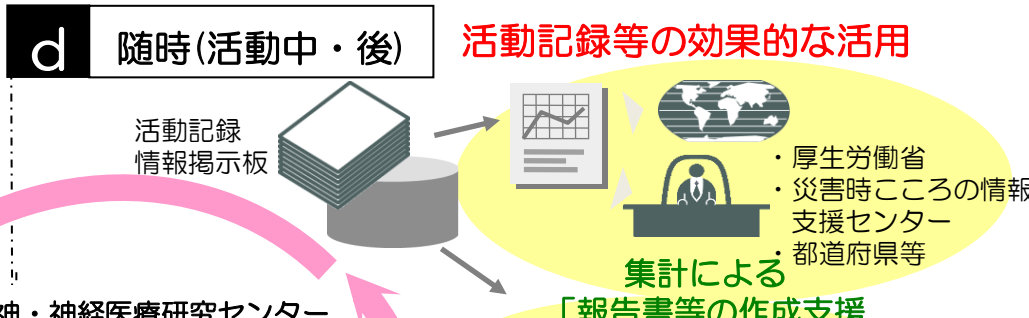
○そこで、厚生労働省では平成23年度から設立された災害時こころの情報支援センター等と相談し、DMATの名称や活動要領も参考に、災害派遣精神医療チーム(DPAT)の名称や定義を定めることとしたところ。

# 災害派遣精神医療チーム:DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team)

自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後、被災地域に入り、精神医療及び精神保健活動の支援を行う専門的なチーム。



# 災害精神保健医療情報支援システム； Disaster Mental Health Information Support System (DMHISS)



**情報支援システム演習 (H25年2月)**  
**；災害時こころの情報支援センター**  
 <対象者> 精神保健福祉センター長、精神科医、担当課職員  
 <参加自治体> 56都道府県・政令市 (全67か所中) 計155人

